



1 未来のICT人材集う①

水戸市内の小中学生を対象にした『ICTエキスパートコース』（主催：水戸市教育委員会）が5日間、本校で開催されました。

参加した児童生徒19名は、プログラミングの基礎を学び、ロボットやドローンを制御しました。また、話題の生成AIを活用し、ジャンケンを判定するプログラミングを体験しました。

最終日にグループごとに成果発表を行い、参加者に修了書が授与されました。水戸一高附属中1年の平間太惶さんは「プログラムやロボット制御など、じっくりと体験でき楽しく学ぶことができた」と笑顔で答えていました。



2 母校に嬉しい成果報告!

水戸啓明高等学校



左から 山田彩乃さん、星野雅弘教諭、泉澤康教諭、西川真人香教諭

7月26日(水)母校を訪問した山田さんは、お世話になった先生方に嬉しい報告をしました。

担任でお世話になった星野雅弘教諭は、「情報に関する国家試験を取得し、常陽銀行に内定するなど素晴らしい」と、山田さんの努力とその成長ぶりに感激していました。

「常陽銀行 株式会社」
山田彩乃さん



水戸啓明高等学校

県立水戸第三高等学校



左から 赤津哲也教諭 藤咲なる美さん

7月26日(水)久しぶりに母校を訪問した藤咲さんは、お世話になった先生方に嬉しい報告をしました。担任でお世話になった赤津哲也教諭は、「高校では文系コースでしたが、情報の国家試験に合格し就職も内定して良かった」と笑顔で話されていました。

「ネクシモ」藤咲なる美さん



3 交通安全の推進①!

7月26日(水)に実施された「交通安全講話」について、学生の感想を掲載します。

◇要約

●絹張哲平さん(麻生高卒)

「交通事故」、それは私たちの日常に潜み、一瞬にして平穏な生活を奪う脅威の一つである。本県の交通事故発生件数は全国的に見ても多く、令和4年度の人身事故発生件数は6271件、死者数は91人と全国ワースト9位である。特に交差点優先車妨害違反に「茨城ダッシュ」と名前がついたり、2022年の調査結果では横断歩道での一時停止率が26.3%の全国ワースト8位になるなど全国的に、交通マナーが悪い印象を持たれている。

今回開かれた交通安全講話を受けて、改めて交通事故が私たちの生活に与える影響の大きさや恐ろしさ、交通安全の大切さを認識することができた。

特に近年問題になっている「あおり運転」や、信号のない横断歩道での歩行者にも目を配り、安全を配慮できるように心がけていきたい。

運転する際は、より十分な車間距離をとり、法定速度の順守や周囲の車、横断歩行者等に注意を払うことで交通事故を未然に防いでいきたい。

